

メール seiji@sanyo.oni.co.jp

Okayama

岡山市民版

展望と課題

2012年度市予算案

東日本が未曾有の大災害に見舞われた昨年、岡山市も防災面で苦い経験をした。9月の台風12号だ。市内は直撃され、各地で河川が氾濫した。浸水は床上1.35世

対処すればいいのか。市民からの問い合わせが市に殺到したが、備えは不十分で現場は混乱。「晴れの国」の災害の少なさと裏腹に、いざという際の対応力の弱さが露呈した。

帯、床下4445世帯に上った。市が発令した避難指示・勧告の対象は21万人余り。70万市民の3割にもなる過去最大規模だった。「土のうはどこにあるのか」「勧告にどう

台風12号教訓に前進

上 防災

22日、岡山市議会の2012年度当初予算案の説明で、高谷茂男市長が真っ先に言及したのは、防災対策だった。市は台風災害の改善22項目をまとめた昨年11月の中間報告などを踏まえ、当初予算案に防災関連経費87億円を計上した。

全小中学校に拡大
まず平常時の備え。各小学校区・地区に、土のう千袋とそれに必要な土10立方メートルを配備できる費用430万円を組んだ。これまで児



島湾沿いなど一部地域にとどまっていたの港湾課)ため、実際に、市内全96小学校区を、地区に拡大して対応できるようなした。

備蓄物資も3240万円かけて増やす。従来常備していたクラッシュカーや毛布などのほかに、500リットル入りペットボトル水3万5千本、マスク1万枚、カセ

「今回の配備は地元の連合町内会からの申請があった場合に、500リットル入りペットボトル水3万5千本、マスク1万枚、カセットコンロ400台、簡易ベッド650台などを新たに加える。災害発生時の情報伝達では、1140万円を予算化し、避難指示

津波対策も予算案に盛り込んだ。3年計画で1600カ所に海抜表示プレートを設置。防災教育も取り入

M割り込み放送を自動受信するラジオ約700台を全小中学校(129校)や全避難所(418カ所)などに配備する。「台風12号災害で避難所は市職員も情報不足に陥った反省を生かしたい」と市防災管理課は言う。

抜本対策はこれから

れ、東日本大震災で中学校の児童生徒が地元津波で「津波でんでんこ」(ぼらぼらでいっから逃げろ)の教えを守って逃げ延びた岩手県釜石市を、市教委職員らが訪れる。「研修などで視察成果を学校の危機管理に反映させる」と市教委指導課。

岡山理科大の西村敬一教授(地震学)は「学校と地域を有機的につないだ協力体制を築き、地域を挙げて防災対策を持続、充実させていく視点が重要」と指摘する。

台風や震災が突き付けた教訓を生かして市民の安全安心を実現するには、大きな課題が横たわっている。

安全安心のまちへ
高谷市長は「災害に強い安全安心のまちづくりに積極的に対応する」と強調するが、発生が懸念される東海・東南海・南海の3連動

岡山市の12年度当初予算案は一般会計が2552億6600万円。過去最大の前年度当初に比べ2億円余減るとはほぼ同額を確保した。予算案を通して市政を展望し、課題を点検する。

さとう人海の個人質問と提案内容です。